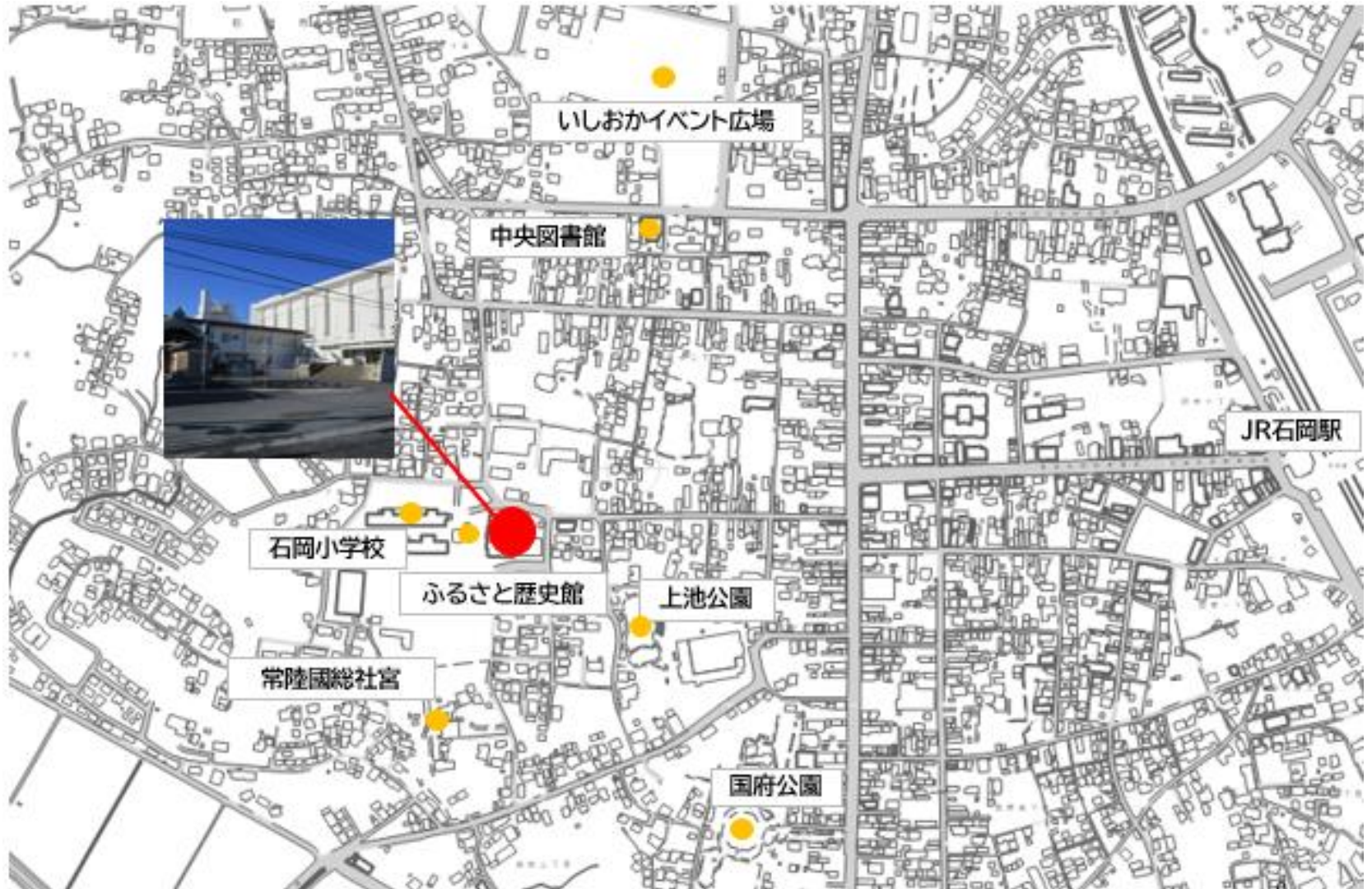


市民会館に関するデータ等

～ 石岡市複合文化施設整備審議会 資料～

位置図～周辺の公共施設等の配置状況～

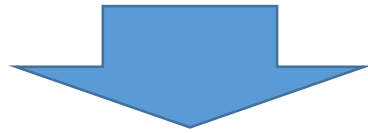
石岡市民会館は、国指定文化財である常陸国府跡が残る市立石岡小学校の隣接地に位置していた。



石岡市民の文化芸術活動の拠点としてだけでなく、あらゆる市民活動の拠点として利用されてきた施設

▶市民の文化教養及び福祉の増進に寄与するため石岡市民会館を設置する。

(石岡市民会館条例第1条)



市民会館は

- ・文化活動の発表の場として
- ・日頃の練習の場として
- ・多くの市民が集まるイベント(成人式、出初式、市民大会等)の会場として

長年多くの人に利用されてきた、石岡市を代表する公共施設のひとつ

施設概要

▶施設概要

- 開館 昭和43年4月29日
- 開館披露行事 昭和43年5月1日～5日
- 運営開始 昭和43年5月7日
- 工事概要
 - ①設計監理 林建築設計事務所
 - ②施工者 大林組
 - ③工期 昭和41年12月8日～昭和43年3月8日
 - ④工事費 212,900千円（付帯工事含む）
- 敷地面積 3,857.7平方メートル
- 建築面積 2,068.5平方メートル
- 床面積 4,621.3平方メートル



（旧市民会館）

▶オーデトリウム棟（ホール）

- 客席 固定席 968席
- 客席面積 590.5㎡
- 舞台 間口15m 奥行 11m 高さ7m

▶管理棟（事務所、会議室）

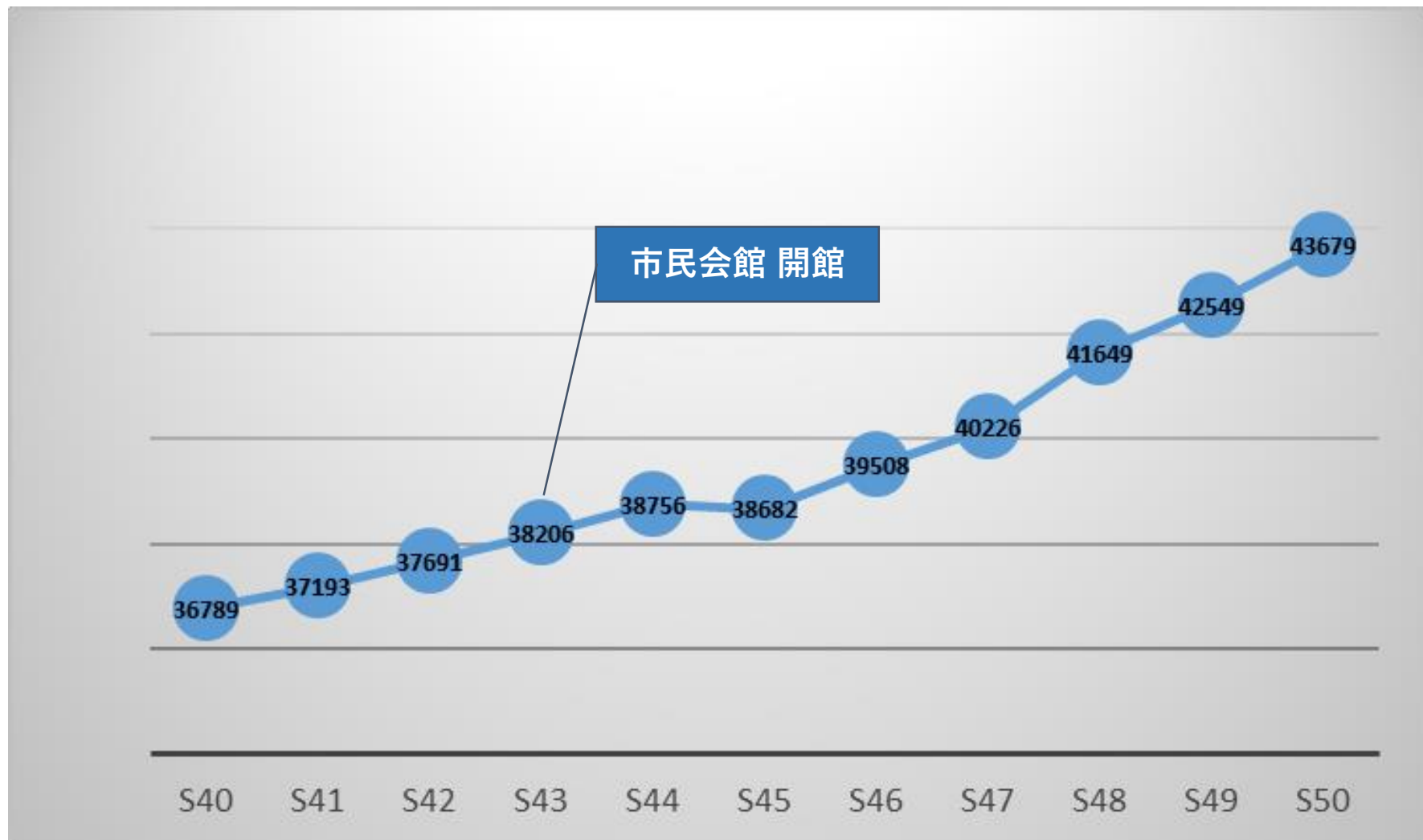
- 会議室 6室

階別	オーデトリウム棟	管理棟
地階	1,374.0㎡	312.0㎡
1階	1,350.5㎡	547.0㎡
2階	288.0㎡	599.4㎡
3階	123.0㎡	
PH		27.4㎡
合計	3,135.5㎡	1,485.8㎡

旧市民会館が整備された時期の時代背景

旧市民会館が整備された昭和40年代

⇒ 第2次ベビーブームにより、人口が増加していた時代



1階部分の構成

▶オーデトリウム棟

大ホール (958席)

ホワイエ (96㎡)

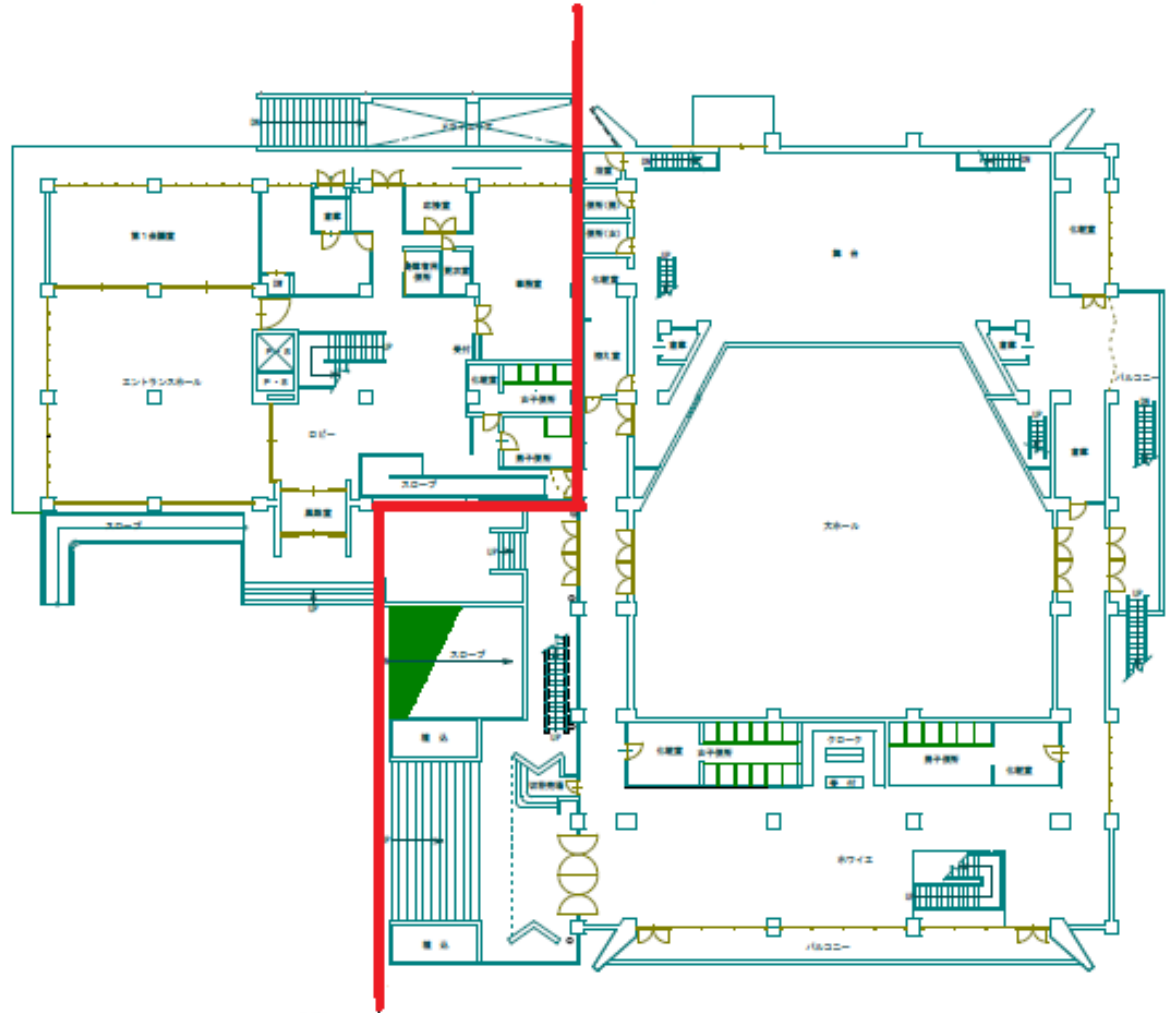
控室・化粧室

▶会議棟

事務室

第1会議室 (72㎡)

エントランスホール (144㎡)



2階部分の構成

▶オーデトリウム棟

着付室・化粧室

バルコニー

▶会議棟

第2会議室 (90㎡)

第3会議室 (73㎡)

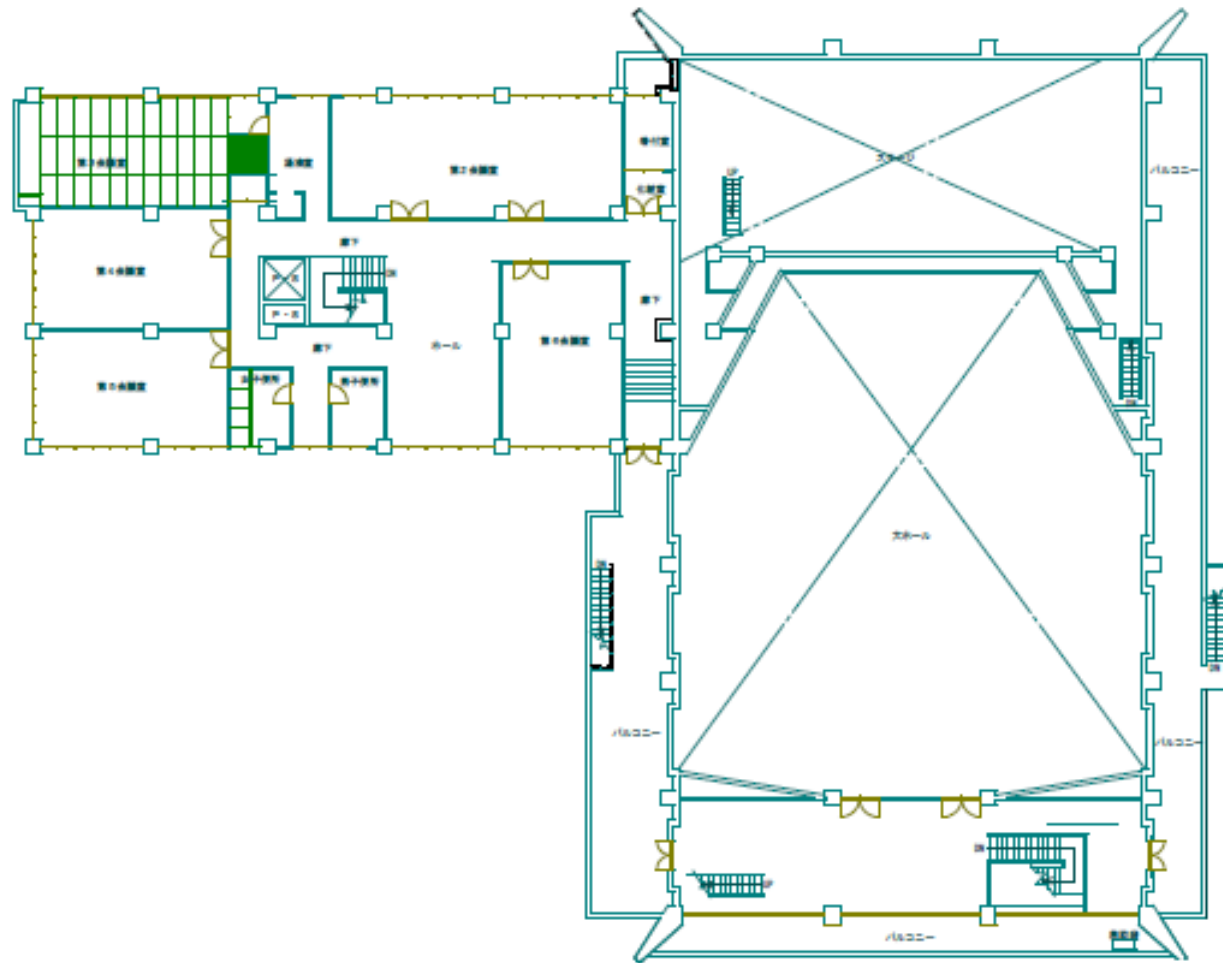
第4会議室 (59㎡)

第5会議室 (59㎡)

第6会議室 (60㎡)

湯沸室

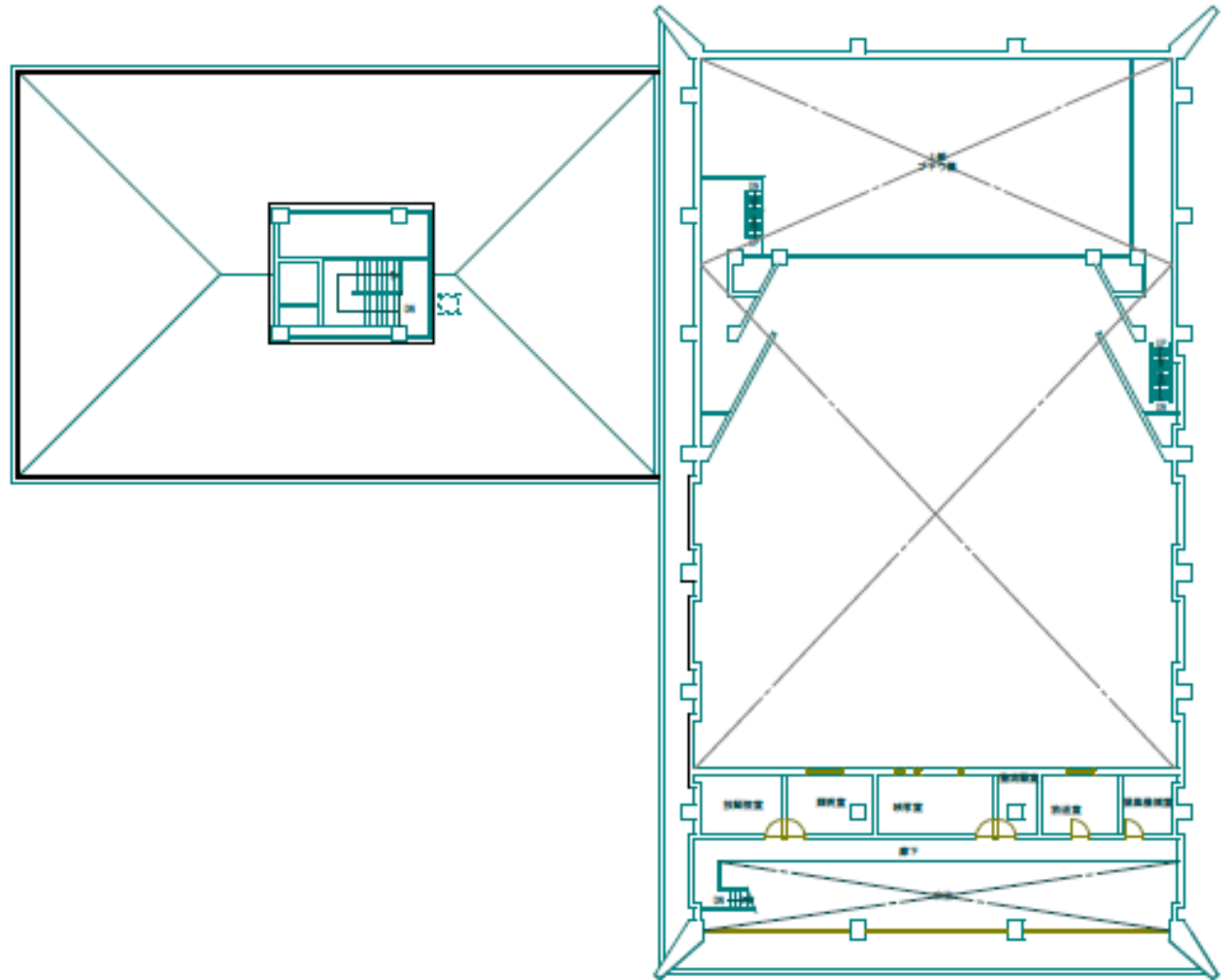
トイレ



3階部分の構成

各棟の主要構成

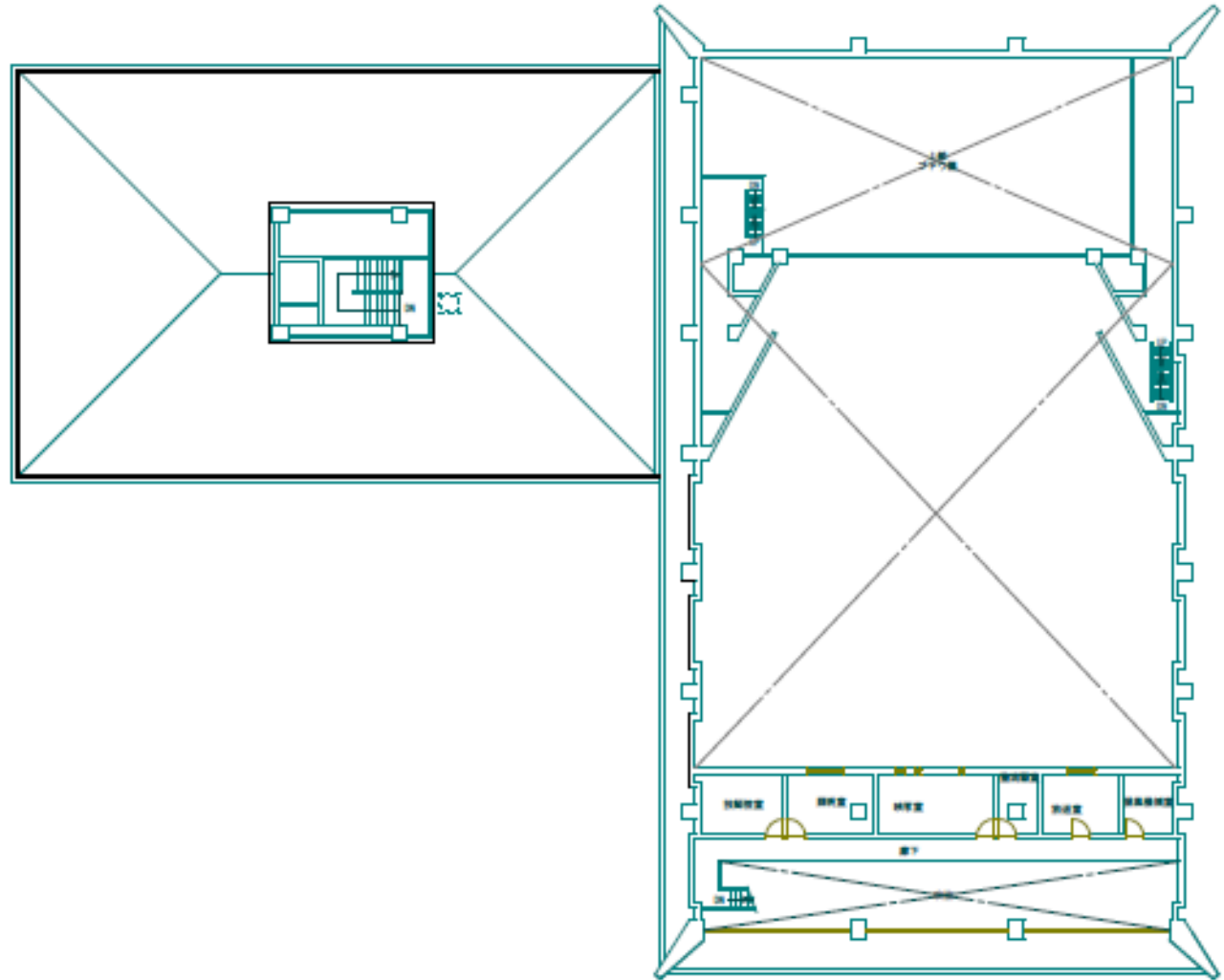
- ▶ 会議棟
- 技術控室
- 照明室
- 映写室
- 整流器室
- 放送室
- 排風機械室



R階部分の構成

主要構成

▶ 屋上



市職員による直営体制 専門的な部分は業務委託

市民会館の運営形態としては、市自ら直営により施設運営を行っていました。

具体的には右図のとおり、市職員3名のほか、「市民会館管理・貸出業務委託」により1～2名の補助員により運営を行っていました。また、オーデトリウム棟（ホール）を使用する際の舞台・照明・音響の操作及び技術管理についても、業務委託により舞台・照明技術者を確保していました。

市職員の配置状況

3名体制

（正職員2名/会計年度任用職員1名）

市民会館管理・貸出業務委託

施設の予約受付や許可書の発行、使用料徴収などの貸出業務及び管理・整理等を行う。

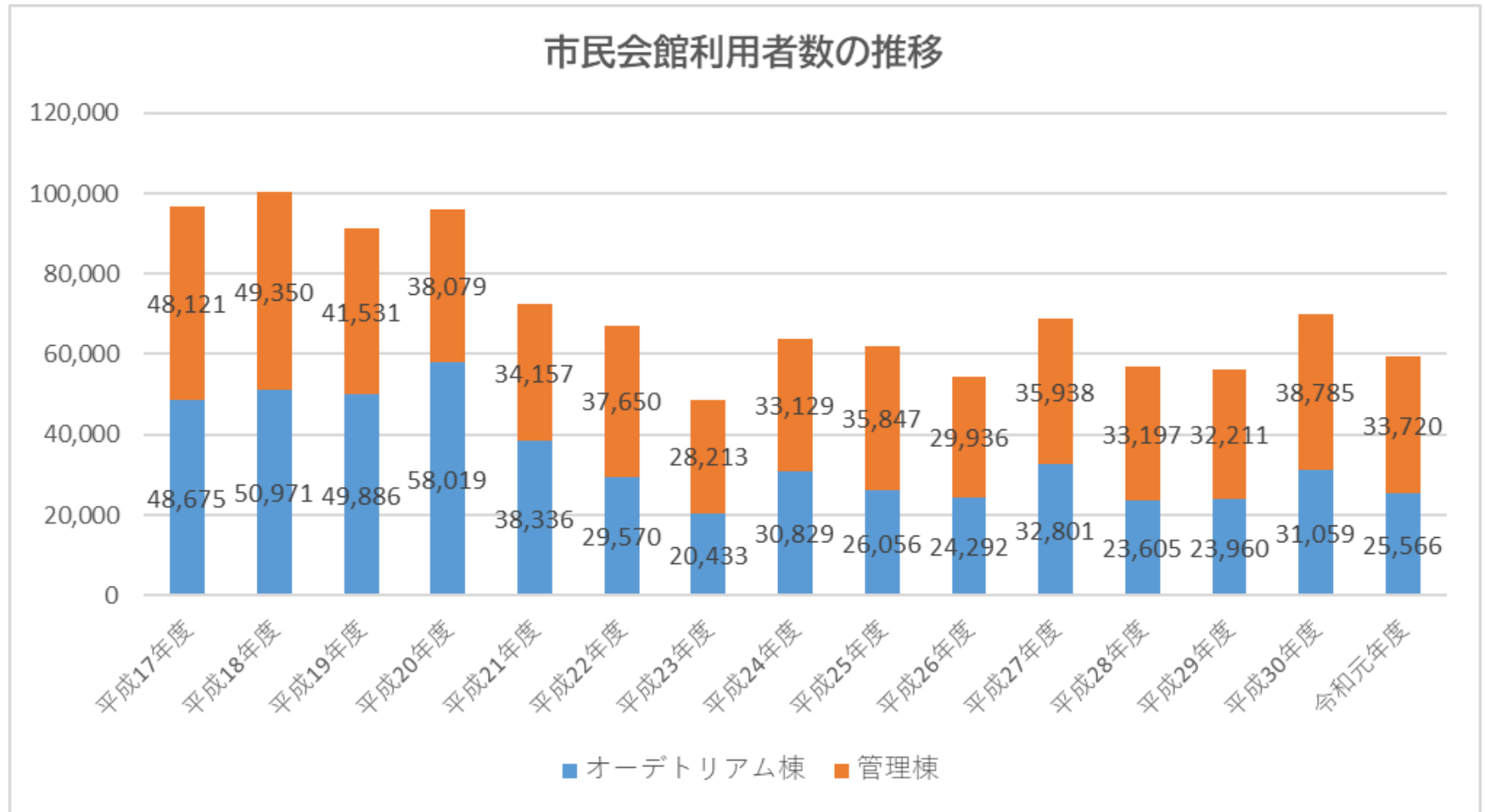
	昼間	夜間
平日	1名	2名
土日祝日	2名	2名

市民会館舞台技術業務委託

オーデトリウム棟（ホール）使用時の舞台・照明・音響の操作及び技術管理については業務委託

市民会館全体の利用状況

合併した平成17年以降、市民会館全体の利用者は減少傾向
～ホール機能のあるオーデトリウム棟の利用実績は、平均34,000人/年間



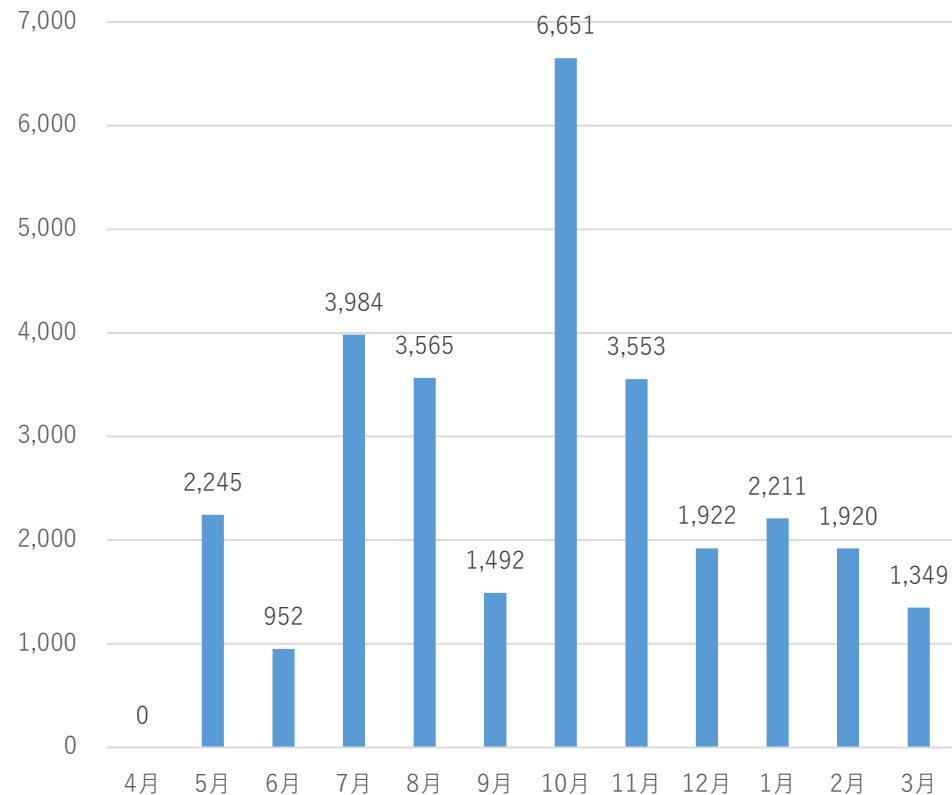
ホールの月別利用者数(平成30年度)

ホール利用者数（月別） ～年間で29,844人が利用

平成30年度におけるホール利用者は、年間29,844人でした。月平均2,487人となります。

月別で見ると、10月が最も多く6,651人だった一方、4月は利用がありませんでした。

10月に石岡市文化協会主催による文化祭、市内小中学校合唱コンクールなど多くの事業が実施されたことによるものです。

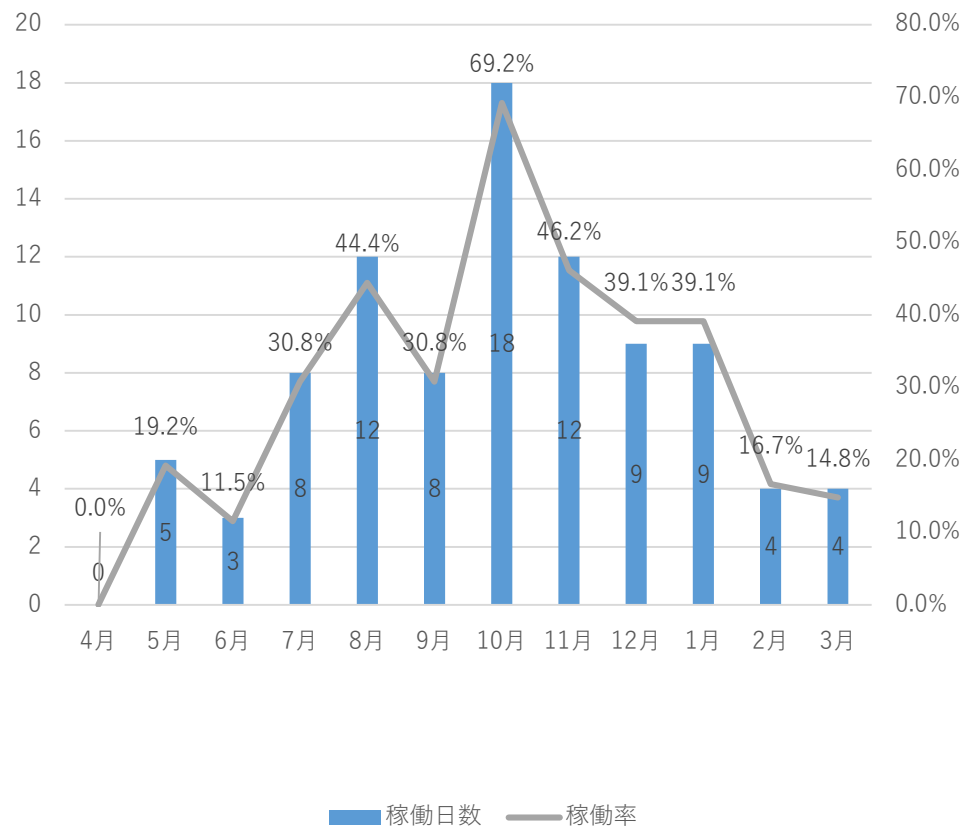


ホールの月別稼働状況(平成30年度)

ホールの稼働状況（月別） ～稼働率は21.6%

平成30年度におけるホール開館日（利用可能日）は306日でした。それに対し、実際に稼働した日数は96日であり、稼働率としては31.4%となっています。

月別にみると、右図のように10月～11月が稼働日数が多くなっている一方、年度初めである4月から6月にかけては非常に少ない状況であったことが伺えます。

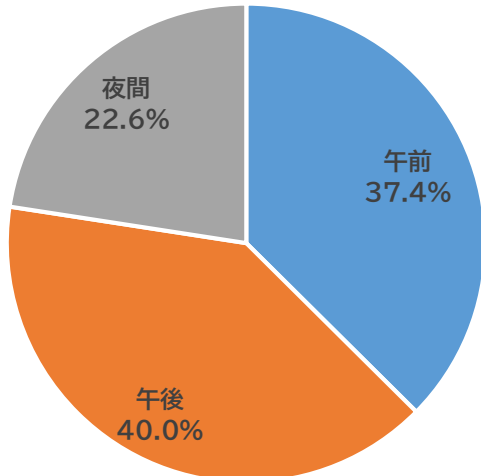


ホールの時間帯別利用状況(平成30年度)

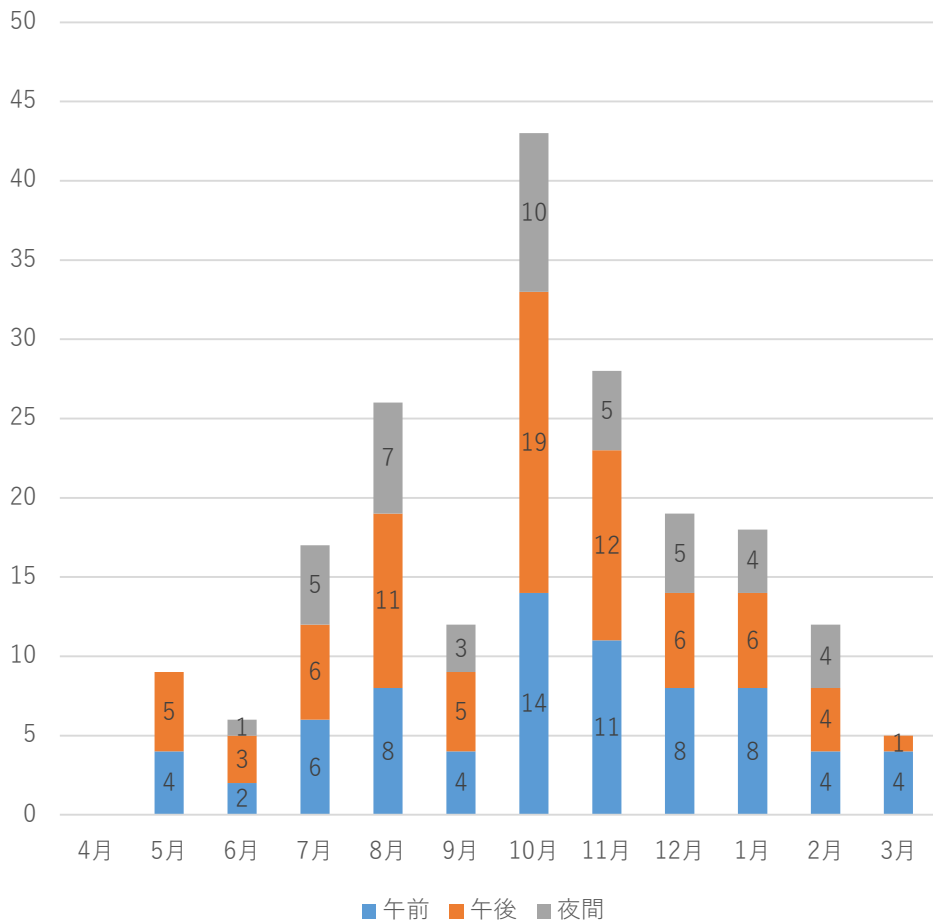
ホール利用状況(時間帯別) ～午前、午後いずれ17.6%、 夜間は7.2%

平成30年度の時間帯別ホール利用状況をみると、午前中が73件(37.4%)、午後が78件(40.0%)、夜間が44件(22.6%)となっています。

時間帯別利用割合(平成30年度)



ホール利用状況(時間帯別)



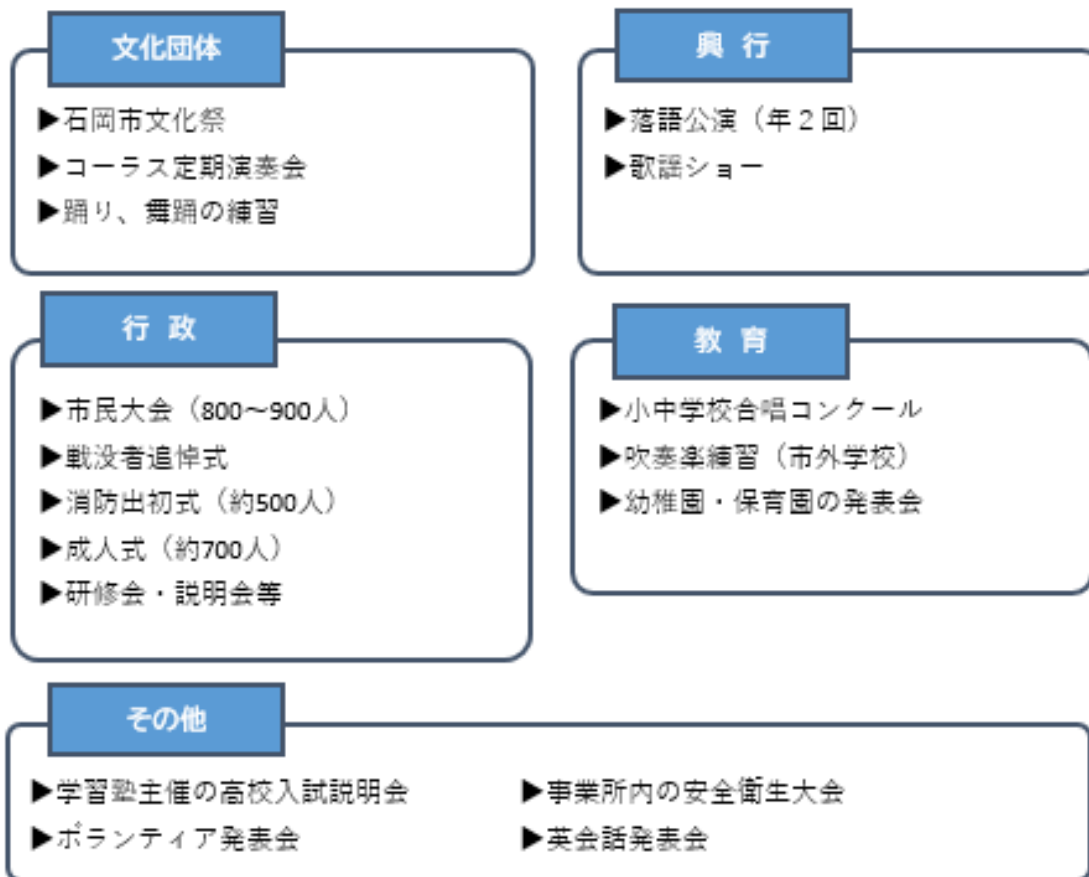
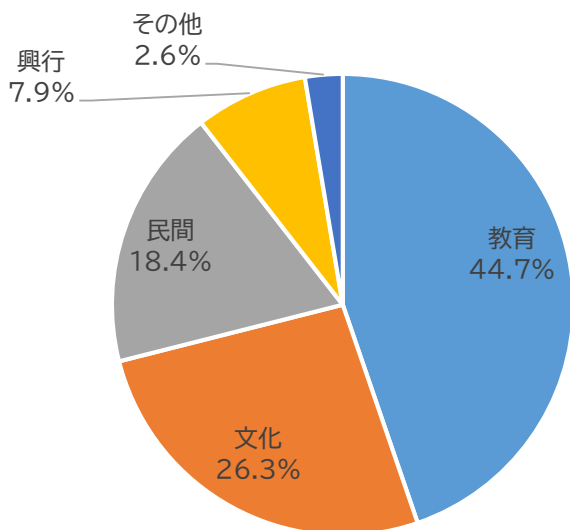
興行少なく、市内団体（文化、教育）による利用が多い状況

平成30年度において、石岡市民会館のホールを利用した団体は、38団体（行政を除く）となっています。

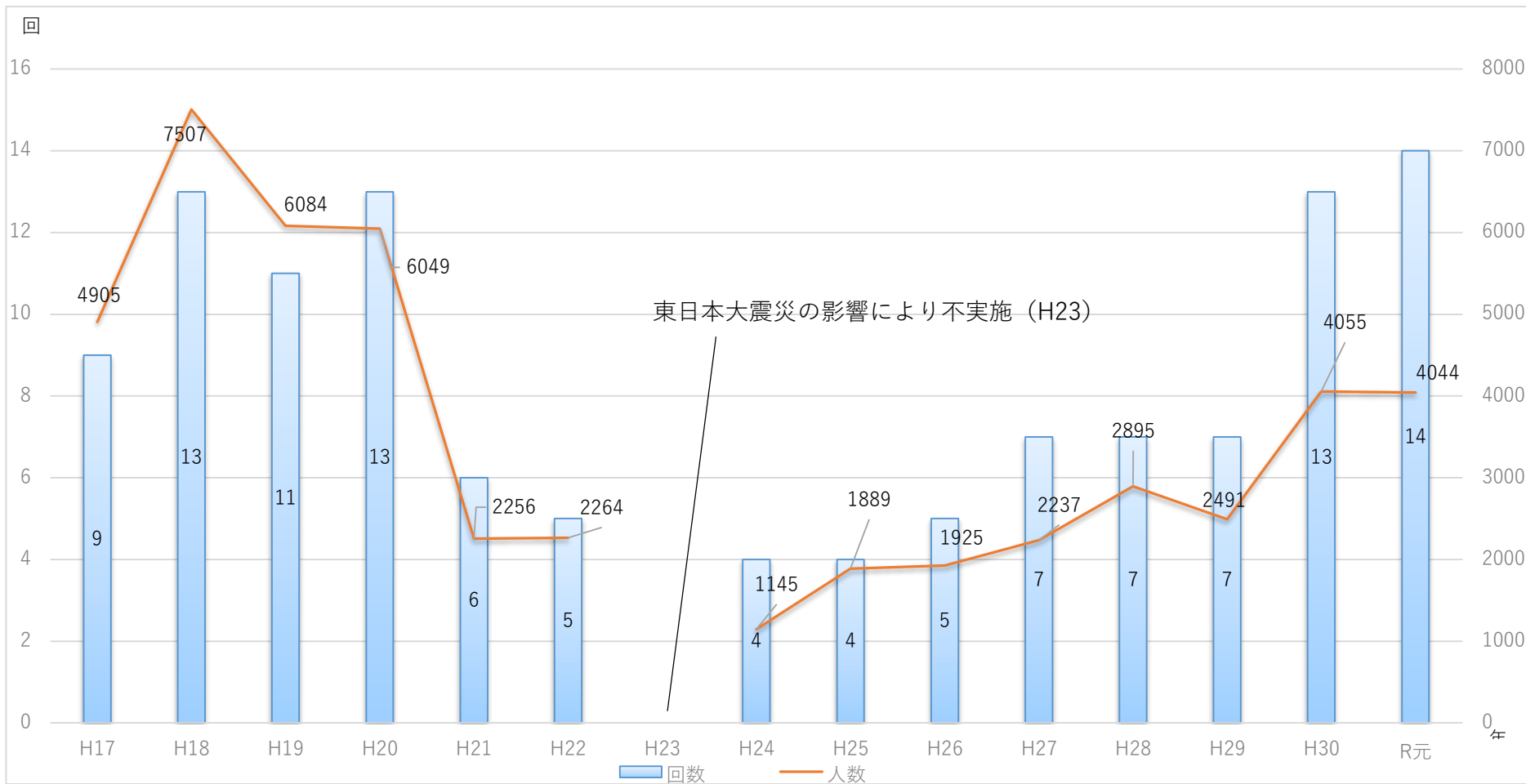
その内訳は、教育関係（学校、幼稚園・保育園）が最も多く44.7%となっており、興行は7.9%となっております。

利用内容は右に示すとおりです。

ホール利用団体の内訳



石岡市民会館における自主事業上演回数及び入場者数の推移



参考資料：石岡市「事務に関する説明書」(H17～R元)

平成17年以降、閉館する令和元年度まで毎年度（平成23年度を除く）自主事業を実施してきました。過去14年間の平均として上演回数4回、入場者数3,553人となっています。

自主事業(市主催)について～過去3年間における自主事業の実施状況～

児童演劇鑑賞や映画鑑賞会といった事業を中心に自主事業を実施

年度	事業	入場人員	収入	支出	差引	公演数
29	児童劇鑑賞教室 日本むかしばなし「鶴の恩返し&なしとり兄弟」	1,328	1,261,600	2,147,313	△ 885,713	3
	映画鑑賞会「君の名は。」	357	302,900	777,600	△ 474,700	2
	大島花子コンサート	431	650,500	1,119,696	△ 469,196	1
	「年忘れ古典落語を楽しむ会」	375	944,000	1,919,280	△ 975,280	1
	計	2,491	3,159,000	5,963,889	△ 2,804,889	7
30	児童劇鑑賞教室「狼とかわいいこやぎたち」	1,738	1,517,000	2,135,750	△ 618,750	3
	映画鑑賞会「ドラえもんのび太の宝島」	900	446,500	621,000	△ 174,500	2
	映画鑑賞会「この世界の片隅に」	281	144,500	515,750	△ 371,250	2
	映画鑑賞会「八重子のハミング」	329	164,500	515,750	△ 351,250	2
	映画鑑賞会「関ヶ原」	325	297,000	704,750	△ 407,750	2
	ミュージカル「しあわせのタネ」	137	398,500	2,550,000	△ 2,151,500	1
	年忘れ石岡寄席	345	665,000	1,953,355	△ 1,288,355	1
計	4,055	3,633,000	8,996,355	△ 5,363,355	13	
元	児童劇鑑賞教室「ウサギとカメ：王様の耳はロバの耳」	1,661	1,446,000	2,076,432	△ 630,432	3
	映画鑑賞「モリのいる場所」	749	467,000	577,800	△ 110,800	2
	映画鑑賞「ボヘミアン・ラプソディ」	394	246,800	567,000	△ 320,200	2
	映画鑑賞「ドラえもんのび太の月面探査機」	844	283,000	594,000	△ 311,000	2
	映画鑑賞「母さんがどんなに僕を嫌いでも」	135	74,800	517,000	△ 442,200	2
	映画鑑賞「ボス・ベイビー」	144	44,100	495,000	△ 450,900	2
	年忘れ石岡寄席	312	648,000	1,948,100	△ 1,300,100	1
計	4,239	3,209,700	6,775,332	△ 3,565,632	14	

自主事業（市主催） ～基金を活用して毎年度実施

閉館した市民会館では、石岡市基金条例に基づき設置された「石岡市民会館基金」（1,000万円）を基に、毎年度の自主事業の企画・運営が行われていた。入場料を徴収し、赤字の場合は一般会計（基金繰出金）により補填。3年間で平均390万円を一般会計より繰出していた状況です。

▶石岡市民会館事業基金

石岡市民会館の自主事業を効率的かつ円滑に行うことを目的に設置された基金で、金額は1,000万円。

※市民会館が自ら事業主となって興行を実施するために設けられた制度。

※企画立案、事業実施は市民会館が行う。

	収入	支出	差引額
平成29年度	3,159,000	5,963,889	△ 2,804,889
平成30年度	3,633,000	8,996,355	△ 5,363,355
令和元年度	3,209,700	6,775,332	△ 3,565,632



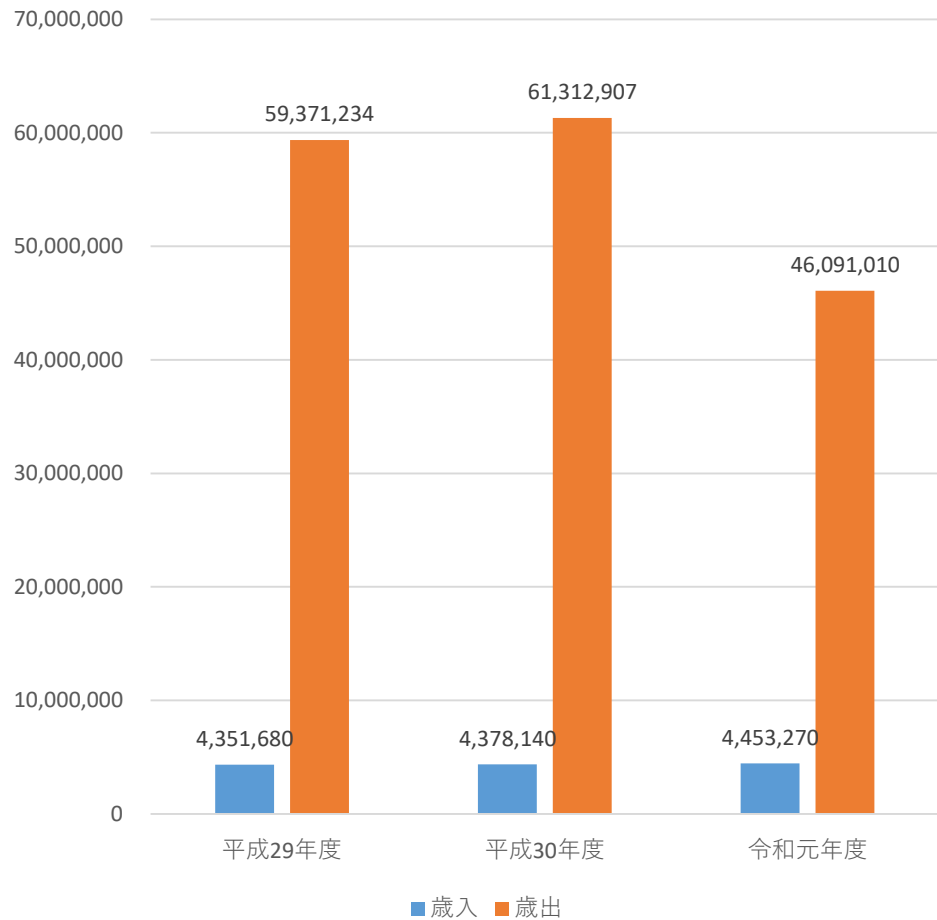
一般会計より補填

決算状況 ～歳出が歳入を大幅に超過

歳入としては貸館事業による使用料収入があり、平成29～令和元年度の3カ年平均は約440万円となっています。

一方、歳出としては職員等人件費、施設運営経費、施設維持管理経費があります。平成29～令和元年度の3カ年平均は5,560万円となっています。

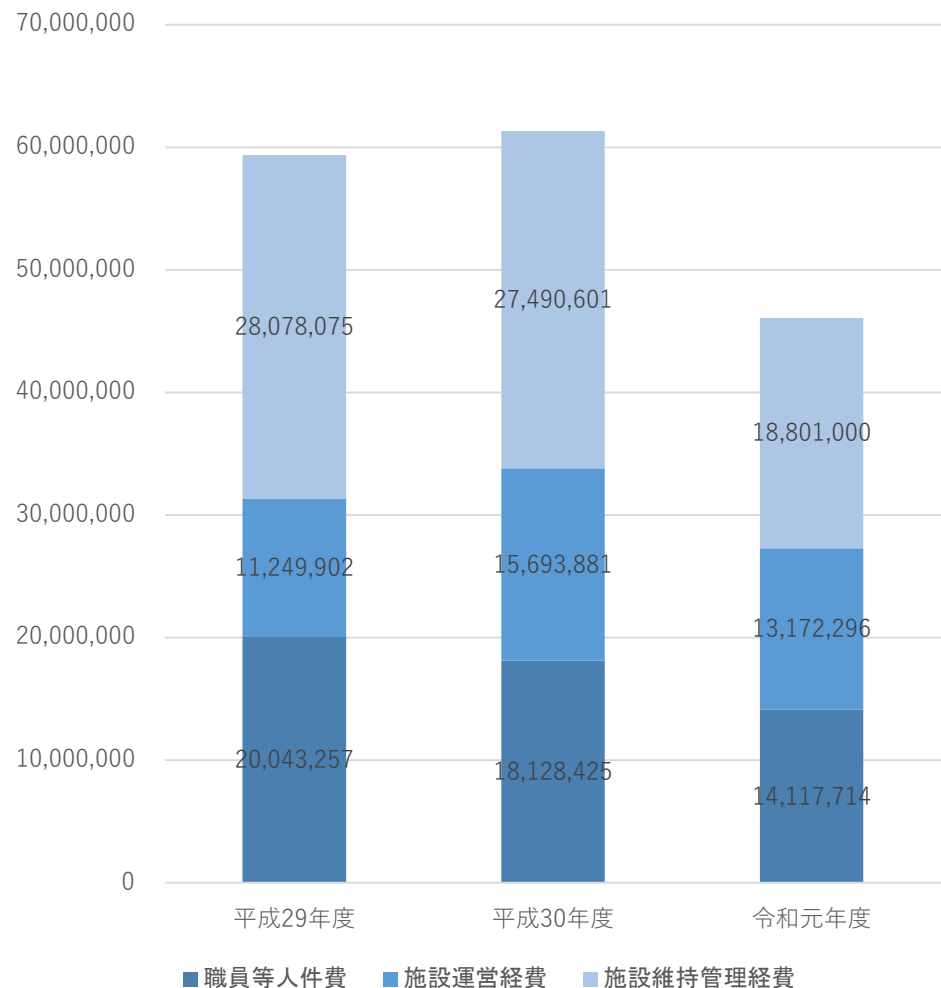
市民会館事業における決算状況



歳出内訳 ～歳出全体の約4割が施設 維持管理経費

歳出の内訳として①職員等人件費②施設運営経費③施設維持管理経費となっています。

その中で施設維持管理経費の占める割合が大きくなっています。過去3年間の平均をみると、職員等人件費31%、施設運営経費24%、施設維持管理経費45%となっています。



全額免除は平均237万円

石岡市民会館における減免金額は右グラフのとおりで、5割免除が3カ年平均約68万円、全額免除が3カ年平均約237万円となっています。

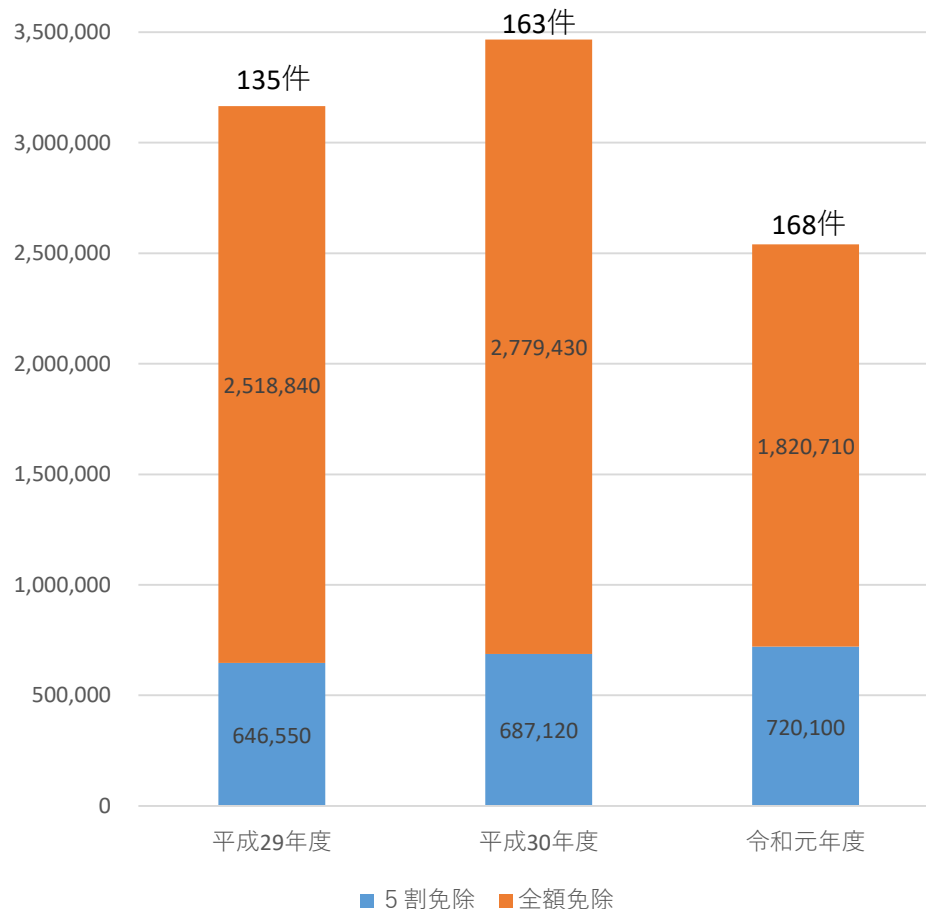
▶全額免除の対象

市主催事業で使用する時、市内の保育園、幼稚園、学校が保育又は教育の一環として使用する場合

▶5割減免の対象

市外の保育園、幼稚園、学校が保育又は教育の一環として使用する場合のほか、石岡市文化協会（加盟団体）、石岡市社会福祉協議会が主催する事業に使用する場合

使用料減免額の推移



文化芸術活動の拠点が市内外へ分散化

令和2年3月の市民会館の閉館を受けて、文化活動をはじめ、あらゆる活動の拠点が市内他施設のみならず、近隣市の施設へと移り、活動の場が分散化することを招いた。